

湾奥部側ほど芽落ちが多い傾向が観察されたが、水路を挟んだ西側の区域では、同じ湾奥部にあっても芽落ちは全くなく、順調に生育していた。

st.11の芽落ちの原因は不明である。

平成12年12月15日の調査結果と比較すると、全体的に平成13年度の方が生育状態は悪い傾向が見られた。

(5) 2月14日(表5)

調査地点別で比較すると、st.2、9、10が乾燥重量が多かった。少なかったのはst.1、3、8、11であるが、そのうちst.1、3では刈り取りの跡が確認された。

12月に大量の芽落ちがあったst.11の乾燥重量は、前回の調査から大幅に増えていた。

平成13年度の松川浦のアオノリ生育状況は、本調査からは前年より良くない傾向が見られたが、漁協では生産量などに特に問題はなかったという。

st.11は本年度に初めて調査したが、芽落ちの原因は不明であるが、次年度も引き続き監視していく必要がある。

表5 2月調査結果

st	乾燥重量	最長葉体長
1	0.354	3.5
2	0.933	7.5
3	0.146	3.5
4	0.615	10.0
5	0.446	9.3
6	0.544	7.8
7	---	---
8	0.328	7.2
9	1.149	7.7
10	1.177	6.3
11	0.346	7.3

網掛けは刈り取り跡が見られた地点